

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1270400623
法人名	延寿グループ株式会社
事業所名	アット・ホームケア千城台
所在地	〒264-0002 千葉県千葉市若葉区千城台東2-20-1 (電話) 043-236-0025

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	4月27日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	12 人	常勤2人, 非常勤10人, 常勤換算4.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6畳38,000円, 5畳21,000円	その他	食費43,500, 水道光熱費10,000, 理美容, オムツ, 医療費など	
敷 金	無		有りの場合	有(期間:2年)保証金及び設備費、修繕費
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	償却の有無		
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,450 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 87.2 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福元クリニック 聖光会病院 堀田医院 千葉中央メディカルセンター
---------	----------------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

モノレール千城台駅に程近い住宅街の一角に位置し、看板がなければごく普通の一軒家である。一歩足を踏み込むと壁や階段の木材が目飛び込んで来て、どことなく温かみと懐かしさを感じる内装である。通常のユニット定員より3名少ない定員6名の入居者はそれぞれ落ち着いて過ごされている。入居者と職員が共に食事をするには少し狭いという居間では、わきあいあいとして、かえって親密な雰囲気を感じる事が出来る。入居者は近くのショッピングセンターに外出したり、公園で保育園児と遊んだり、地域の同年代の方との交流も自然に図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、入居者と職員が同じ時間、同じリビングで一緒に食事を摂ることが期待されていたが、建物の構造上難しいため、職員は入居者の側に座って会話を楽しんだり、廊下を挟んだキッチンで食べるよう工夫、改善されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を理解し、自己評価は職員の意見を聞きながら取り組まれている。また、外部評価の結果は運営推進会議やホーム会議等で話し合わせ、積極的な意見交換がされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では前回会議からの検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合うだけでなく「他事業所の問題点や結果を参考にしたい。」「地域の課題も検討したい。」など本来の会議目的を超えた会議運営を検討している。地域包括支援センターや市町村行事には積極的に参加し、交流の機会を設け情報交換をしている。ホーム行事への参加の呼びかけをしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「アット・ホームケア通信」を発行しご家族に送付、書面をもったの意見や苦情、不安を表せる機会や、訪問時等常に問いかけ、何でも言って貰えるよう配慮している。また遠足の行き先等も家族とも相談し決めている。そこで出た意見等は運営推進会議やホーム会議で話し合わせ運営に反映するようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会のゴミ収集やクリーン作戦、敬老会、老人会、近隣の小中学校の運動会等のイベントには積極的に参加したり、入居者は近所の公園で保育園児と遊んだり、地域の同年代の方との交流が図られている。また非常災害時の対応として、入居者ワッペンをオリジナルで作成することや、地域の協力、理解が得られるよう約1400世帯に回覧版を回すなどの取り組みがなされている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	系列4ホーム共通の理念「アシステッドリビング(自立支援)、個別対応、家庭的なホーム作り」を掲げている。今後、運営推進会議等を通じ、地域密着型サービスとして、それぞれのホーム独自の理念を検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関等に掲示され、職員採用時には必ず理念を伝え、毎月1回のホーム会議や日々のカンファレンスの際も確認するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のゴミ収集やクリーン作戦、敬老会、老人会、近隣の小中学校の運動会等に積極的に参加したり、入居者は近所の公園で保育園児と遊んだり、地域の同年代の方との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解し、自己評価は職員の意見を聞きながら取り組まれている。また、外部評価の結果は運営推進会議やホーム会議等で話し合わせ、積極的な意見交換がされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では前回会議からの検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合うだけにとどまらず「他事業所の問題点や結果を参考にしたい。」「地域の課題も検討したい。」など本来の会議目的を超えた会議運営を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市町村行事には積極的に参加し、交流の機会を設け情報交換をしている。ホーム行事への参加の呼びかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「アット・ホームケア通信」を毎月発行し家族に送付、入居者の様子や健康状態、行事予定、行事報告等を写真を交えた紙面にて報告している。また、家族訪問時には金銭管理ノートにサインを貰っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や訪問時等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるよう配慮している。また遠足の行き先等も家族と相談し決めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列4ホーム運営しているが、基本的に職員は固定し顔馴染の職員によるケアを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継に配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年度計画により明示され、内外問わず積極的に参加している。管理者から各職員に対し研修参加の促しをしているが、段階に応じた育成をするには至っていない。		職員個々の成長段階が測定できる人事考課システムが確立されているが、その結果が研修計画に反映されていない。この結果をもとに目的を明確にした個別の研修計画を立案することが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4ホーム内での交換研修会やホーム長連絡会、地域の介護保険事業者のホーム見学等により同業者との交流を図りサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>出来る限り入居前にご本人、家族にホームを見学してもらいホームの雰囲気や職員との交流が図れるよう配慮されている。状況によっては自宅等に出向いたり個々の状況に合わせ柔軟に対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ケアする側、される側という意識を持たず、お互いが協働できる食事の支度や片付け、お花の手入れ等一人ひとりに得意な役割を持って貰えるようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の生活の中で入居者一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。意思疎通が困難な方にも必ず声をかけるなど、コミュニケーションの機会を大切に、希望や意向を感じるように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の申し送り後の意見交換や月一回のホーム会議、カンファレンスの結果を個別ケアに活かしている。入居者本意のケアの実施に向けてチーム内でのコミュニケーションは良好であり、職員一人ひとりがカンファレンスの結果や課題を理解している。しかし、その内容が介護計画に反映されていない。</p>		<p>日々のケアの中で課題となることを職員でコミュニケーションを取りながら解決していることが業務日誌、カンファレンス議事録などからも伺える。入居者、家族、職員と今までと同じく意見を出し合いながら、その結果として課題発見やケア内容の変更があればその都度介護計画に反映させることを期待する。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員の意見交換が活発に行われ、臨機応変な対応や実情に応じた個別ケアを行っていることは日々の業務日誌等からも伺える。しかし、介護計画の見直し段階でそれが計画化されていない。</p>		<p>入居者本意の個別ケアの実施に向けた取り組みは優れているが、介護計画にそれが反映されていない。カンファレンス等の結果を計画に反映させ、ケアの実施、アセスメント等のサイクルを計画的にまわすことで、更にケアの質の向上が図られると思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急にホーム利用を希望される方がいれば、できる限り対応している。今後も入居者、家族、地域の方の要望を聞き、認知症等の相談を受け付けたり、社会資源の新たな発見や提案ができるように努めていきたいとのこと。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、希望の医療機関に受診出来るようにしている。また、定期的に月2回の往診と24時間対応してくれる医師との連携が構築されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状況に応じて早めに家族と連絡を取り、重度化については話し合い、その結果を職員と共に共有している。運営者が医師であり病状等も含めて最も適切な方法を家族の希望を尊重して選択している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の尊厳を大切に、プライバシーを確保しなければならないケアには特に注意している。個人情報の取扱い、守秘義務などについては常に意識できるように話し合いをしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもある個別対応、家庭的なホームづくりを実践している。入居者1人ひとりの希望や体調、天気なども考慮し、個別のケア、生活支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はメニュー作りから始まり、買い物でも食材を入居者が選び、できることは自然に行えるような雰囲気をつくっている。理念にある自立支援を毎日の生活の中で実践するように、職員は食事を含めてその機会を大切にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回と決められているが、入浴時間は自由で、入居者の希望があればいつでも入れる。入浴日以外でも失禁等の状況により、清潔保持の対応をしている。		職員の配置等の制約がある中で、入浴日の日数を増やすことは非常に難しいと思われるが、週2回の入浴を段階を追って増やしていくための取り組みを始められることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、入居者一人ひとりが楽しみを見つけ、職員はそれを入居者と共に行っている。庭の手入れ、洗濯物たたみ、食事の用意など入居者が自然に行っていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良ければ毎日のように外出している。車椅子の方も本人の希望を聞いて、できるだけ外の空気を感じていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間に関しては、防犯、安全の両面から入居者、家族等からの希望もあり、玄関に鍵をかけている。昼間は鍵をかけずに職員が安全面を配慮しながら見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の方からの災害時協力が得られるように地域交流を行っている。自治会への働きかけ、運営推進会議を通しての災害時対応の浸透などを行っている。地域の回覧版にはホームの紹介を掲載してもらったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録し、1日1200cc取るようにしている。摂取カロリーについては食事量の把握と1200～1400キロカロリーを目安にバランスの取れた食事を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のグループホームで、入居者と職員が共に過ごすリビングが狭いが、台所のスペースも利用して、家庭的な雰囲気職員と入居者が団欒している。昔ながらの生活をそのまま残す配慮がリビング、庭先、玄関などになされ、バリアフリーではない部分も職員のケアで安全を確保するように努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れたものを置き、その人の希望、好みを尊重した居室空間を大切にしている。入居者が居心地よく過ごすのに適していると思われる田舎の古民家を思わせる畳の居室で、入居者の使い慣れたタンス等がマッチしていた。		